（別紙4）　　令和　5　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2391200033		
法人名	ゆたか福祉会		
事業所名	グループホーム宝南の家		
所在地	愛知県名古屋市南区元塩町３丁目１番地の１		
自己評価作成日	令和5年9月12日	評価結果市町村受理日	令和5年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2391200033-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5　かえでビル　2階
聞取り調査日	令和5年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

認知症になっても生き生きと過ごせる場所として、できることを続けられるような支援を心がけている。認知症の進行や転倒による骨折等、日々の状況の変化を気にしながら、今までの生活歴や好きなもの、昔話等情報収集をし、その人らしく暮らすことについて試行錯誤をしながら支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

◎軽減要件適用事業所

今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。

①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票　③目標達成計画

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を事務所に掲示し、リビングには事業所独自の内容を提示している。また、利用者とともに唱和も行っている。職員会議での理念の学習会について職員への共有の実践を行う予定だが、今年度はできていない。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事や、地域の消防団との避難訓練等で地域交流を再開した。最近では、盆踊り練習や夏祭りに参加し、地域の一員としての交流を努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症専門部会や運営推進会議にて、認知症の人の理解や支援方法について発信している。また、認知症カフェを令和5年5月から再開した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行楽の場所や地域行事について、自然災害時の対応についてのアドバイスを役立てている。例えば、施設内で被災しその場で避難している場合は、代表者が避難場所の名簿へ登録しに行く必要があることを教えていただいた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へいきいき支援センター—の職員にオブザーバーとしての参加依頼や、認知症専門部会委員として部会へ参加し、市役所の担当者を取り合い、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が気が付かないうちに一人で外出されてしまう事故が続いたことがあったが、玄関は施錠せず、出かける気持ちに気が付けるような対策を、身体拘束委員会や職員会議で話し合いを行い取り組みをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会にて、不適切なケアや当たり前になっていることの見直し等、グレーゾーンと言われる部分の早期発見に努め、虐待防止につなげている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がいる。制度については、管理者や職員ともにこれから学ぶ機会をもうけられるように目指していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約については、直接口頭で書面とともに説明している。その都度、利用者や家族の疑問点を確認しながら、理解や納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルスの影響で家族と職員の交流が減ってしまっていたが、7月に納涼会を再開し、ともに時間を共有することで、意見や要望等を気軽に話せる関係性づくりを目指している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	昨年、15～30分程度の業務の振り返りの時間を設けたが、定着せず廃止することとなった。運営会議にて会議参加者が現場の聞き取りを行った意見や提案をまとめ、職員会議につなげ反映する仕組みつくりを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己申告のアンケートを行い、働きやすさや、やりがいについて申告を受けている。手芸の得意な職員やおやつ作りの得意な職員の活躍できる場を設け、やりがいにつながるような職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の新入社員研修等独自の研修に参加したり、外部の研修に積極的に参加して職員育成に努めている。最近では、排泄ケアについての研修に力を注いでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム全国大会に参加を予定し、同業者と交流する機会を設ける予定である。他の事業所見学については、コロナ禍で行えていないが少しずつ取り戻して行きたいと考えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族に、ホームでの生活する上での希望に耳を傾けながら、今までの生活を継続できるよう努めている。なにげない会話の中に困りごとが隠れていることもあるため、傾聴を心がけ関係性づくりを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に困っていることや介助していたことを聞き取り、ホームで生活する際の要望等に耳を傾け、協力関係をつくり上げられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	大腿骨骨折のため車いす生活となってしまった利用者さまへ、訪問マッサージなど他のサービス利用を本人や家族に提案を行い実施に至っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗い物や洗濯物たたみについては、利用者が主体となり行っている。日常生活の家事等を職員任せにすることなく、お互いが支え合う関係性作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外食やお墓参り、家族との定期的な外出や外泊により、本人と家族の絆を大切に努めている。家族にも新型コロナウイルスの感染対策には協力依頼をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	往診医が馴染みの医師であることや、訪問看護が在宅に利用していた看護師がいることで入居に至った利用者がいる。散歩仲間や以前住んでいた家の大家さんが面会に来ることがある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の介護度もさまざまであり、お互いが支え合い支援している関係性が自然とリビングで行われている。時折、口論になることもあるため、間に職員が入り関係性を壊さない努力をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最近では、退去後の関係を断ち切らない取り組みができていない。ゆたかめカフェのボランティアの参加依頼等何かしら、繋げられたらと考えている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの役割を持って活躍していただくことや、外に出かけたいお気持ちに寄り添い一緒に出かけることなど努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞き取りを行いながら、絞屋の娘だった話、岐阜の関市での話、娘様やお孫様の話など、回想法に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや月1回のケース会議を実施し、変化を見逃さないで情報共有できるよう努めている。本人の持っている力の現状を単発で判断することなく長期的に把握し支援に活かせるよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員をもうけ、モニタリングや介護計画作りを計画作成担当者と協力して行っている。必要時に、電話等で医療機関と情報共有し、本人の思いを合わせてプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には入居者の状況を把握できるように記録を行っている。業務日誌や個別チェックシートを使って本人の希望や気づきなどを職員間で共有しプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム以外で楽しめるよう、町内行事の防災訓練や盆踊りなど地域とのつながりを再開した。また、施設内での取り組みの様子を家族へメールで写真をお送りするなど行った。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等で、情報収集に努めている。消防団等の避難訓練や認知症カフェでの食器の下膳等、活躍の場を見つけられるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症や整形外科等の専門医等、家族の希望があれば受診を行い、適切な医療を受けられるように努めている。最近では、かかりつけの整形外科に3か月に1回受診支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携し、24時間連絡体制となり、本人の体調についていつでも相談できるようになっている。往診医とも連携が取れ居ているため、必要がれば医療介入ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の医療や生活情報などを介護サマリーにて情報共有している。必要に応じて病棟看護師と情報交換を行ったりしている。退院時は、入院中の情報提供書をもらい、往診医や訪問看護と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にホームで対応できることを説明しながら、本人・家族の思いを確認している。状況等によって対応の希望の変化もあるため、定期的な担当者会議を利用して行うとともに、医療との連携を図り、チームでの支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当・急変時の対応については、事務所に掲示していつでも確認できるようにしている。またAEDの取り扱いについても勉強会等を設け、実践力を身につけられるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防団との防災訓練を行うとともに、今年からホーム内での炊き出し訓練や避難訓練をこまめに行う等、全職員が身につけられる対策を検討中である。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なにげなく居室に無断で洗濯物を片付けに行っているなど、個人のプライベート空間の再確認や、スピーチロックとなる声かけに気が付けるよう、事例検討を用いながら学ぶ機会をもうけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の些細な会話で、本人の思いや希望をくみ取り、添えるよう努力している。誕生日の日は好きな食べ物を伺い提供する支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声をかける際は疑問形を心がけ、一人ひとりのペースを大切にし、自主的に本人が動かれる際は、希望にそって支援できるように努め、本人の意欲を軽減させないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な理美容院の利用や、鏡の前で身だしなみを整えている。また、最近入居された利用者が自宅用のヘアカラーを購入され、ご自分でやり方がわからず、職員が白髪染めをお手伝いさせていただいた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	パンがお好きな方へは主食をパン食にしている。また、嚥下機能の低下より、食べられるものが限られている方へは、食べられる好みのものを提供する工夫をしている。準備・片付けについては利用者と職員が一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下機能の低下や認知症の進行により食べることを忘れてしまっている利用者が増えている。栄養量のバランスを考えて提供すできるよう努めている。また、こまめに水分を取れる環境を整えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回毎食後の歯磨きを行っている。一人ひとりの力に合わせ、お手伝いが必要な方へは仕上げ磨きや、義歯を毎晩消毒等を職員が行っている。歯科往診にて口腔ケアや指導を受けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄ケアの外部研修に今年度は積極的に参加している。トイレ介助が必要な方がほとんどだが、できるだけトイレでの排泄ができるよう、排泄パターンの把握に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヨーグルトを提供したり、水分をしっかりとってもらうよう声をかけたり、毎朝、トイレに座る習慣を心掛けたりしているが、内服薬頼っている方が多くなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の都合や体調に合わせて、無理強いをせず、一人ひとりのタイミングで入れるような支援を心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムの把握に努め、昼夜逆転にならないように、昼間の活動を多くし、メリハリのある生活支援に努めている。本人の希望があれば昼間も休んでいただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についての情報共有として、事務所の掲示している。また、変更があれば、業務日誌に記載し、何かいつもと違うことがあれば、医師や薬剤師に相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	サンドイッチが好きな方のために昼食にサンドイッチを作ったり、お弁当の日をもうけ、近くのスーパーに自分の好きなお弁当を選んで買いに行く企画をし気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くへの散歩は新型コロナウイルス感染対策を行いながら継続していた。最近では、花見に出かけたり、喫茶店に出かけたり、家族の家へバーベキューをしに帰宅されたり、家族の家に泊まったりと個人での外出支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室で管理を希望された場合は、ご自身で管理して頂いている。また、家計簿もご自分で書いている。その他に、職員と買い物に行った際、職員がお金を手渡ししご自分で支払って頂いたりという取り組みをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を個人で持つ方はLINEや電話にて家族や大切な人とやり取りしている。また、持っていない方は、施設の電話を使用してやり取りできるように支援している。今年の年賀状に自分の名前を書いてもらう取り組みを行った。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、ベランダで家庭菜園をして季節を感じていただいたりしている。また、季節の花を家族が持ってきて下さるのでリビングや居室に飾ったりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは固定の席をもうけず、個々に座りたい席に座っていただき、本人のお気持ちに合わせて過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	引っ越しの際は、今まで使っていた家具等を持ってきて頂いたり、仏壇も居室に置いたりと、本人が心地よく過ごせるように、本人や家族にご協力頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人で病院や買い物に行きたい利用者には、携帯電話を必ず持って出かけていただき、職員は尾行する形で困っていたり危ないことがあれば手助けできる距離に待機し、自立した生活支援に心がけている。		